

ただ今、作品点検中!

作品点検では、作品をライトで照らしながら隅々まで観察し、傷や汚れが無いかを確認します。作品にライトで様々な角度から光を当てることで、表面の亀裂や剥がれた箇所だけでなく、絵の具の厚塗りやニスが塗られている箇所もよく見えるようになります。もし異変があれば、該当箇所を撮影するとともに、専用のレポートに詳細に記録します。過去の記録と見比べることで、新しい損傷がないか、あるいは過去の損傷が進行していないかを確認しています。大きな損傷があれば、専門家に修復を依頼することもあります。展示されている時よりもより細かく作品を見ることができるのも点検の面白いところです。



道具の使用風景や
作品点検風景を
QRコードから
動画でチェック!



どんな風に使っているかは動画で!

2021年展覧会スケジュール

Exhibition Schedule



Shock of Dalí
ショック・オブ・ダリ

4月24日(土) ※状況により会期が
変更になる場合がございます。
→ 6月27日(日) | 会期中無休!

サルバドール・ダリ(1904-1989)が日本の芸術家
に与えた影響とは?ダリ作品とともに日本の芸術家
によるシュルレアリスム作品をご紹介します。

ミュージアムショップからのお知らせ

Museum Shop Information

Morohashi Museum of Modern Art

Museum Store



当館ミュージアムショップの
オンラインストアがOPEN!!
ぜひ、のぞいてみてください。



新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する当館の取り組みについて

新型コロナウイルスの感染・拡散防止を目的として、整理券を配布し、入場を制限いたします。また、入館者全員に検温を実施いたします。37.5度以上の熱がある方はご入場いただけない場合がございますので、ご了承ください。その他、マスクの着用、手洗い・消毒にご協力いただけますようお願いいたします。コインロッカーや休憩椅子など随時スタッフが消毒を行い、安全にご観覧いただける環境の徹底に努めてまいります。



諸橋近代美術館

〒969-2701 福島県北塩原村松原字剣ヶ峰1093番33
TEL. 0241-37-1088 URL. https://dali.jp

2020年11月30日(月)~2021年4月23日(金)は冬期休館いたします。

DALIMO

No.015

2020.09

SALVADOR DALI + MOROHASHI MUSEUM OF MODERN ART

筆箱の中身?日曜大工の道具?
いえいえ、学芸員の仕事道具です。



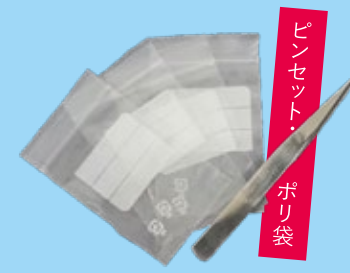
手袋

作品に手の脂や指紋をつけないようにするため、手袋を着けて作業をします。作品の形状や材質などによって、ゴム手袋と木綿の白手袋を使い分けます。



ライト

作品点検の際に使用します。様々な方向から光を当てることで、作品の傷や付着物が見えやすくなるため、作品点検には欠かせない道具です。



ペンセット

ポリ袋

作品点検時、作品から剥がれ落ちた絵具の欠片が見つかることがあります。それらをポリ袋に入れ、いつ、どの作品の、どの箇所から剥がれたか記録し保管します。



刷毛

これで作品の埃を取り除きます。特に展覧会後は絵画作品の額縁に埃が溜まっていることがあるため、刷毛で丁寧に取り除いていきます。



ルーペ

作品の表面の細かい構造や傷、汚れなどを拡大して観察します。展示室に仕掛けた虫トラップにどんな虫がかかっているか確認する際にも使用します。



ブローアー

作品に付着した埃やゴミを除去するために使用します。細かい溝や壊れやすく刷毛などで触れられない箇所の埃も除去することができます。



メジャー

作品や展示台などのサイズを測ったり、キャプションの位置を決める際の計測に使用します。



色鉛筆

作品点検の記録は作品のすぐそばで行うため、作品を傷つける可能性があるボールペンは使用しません。必要に応じて色分けができる色鉛筆で記録します。



クロス

絵画作品の表面を保護しているガラス板やアクリル板が汚れている場合は、繊維が付着しにくいクロスで拭き取ります。

道具を知ると、学芸員の仕事が少し見えてきます。

学芸員の仕事

作品保全編

展示室の注意書き



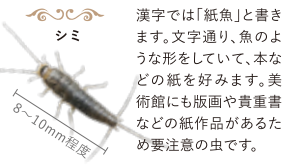
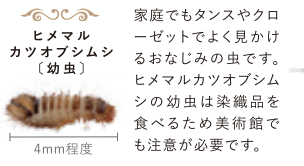
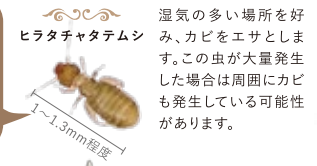
Q. 作品に触れてはいけないのはなんで？

作品には壊れやすく繊細なものや、不安定なものもあるため、安全上の理由から作品に触れることを禁止しています。また、手の脂や指紋が作品に付くと、汚れやカビを呼び寄せる原因にもなります。

Q. 飲食禁止なのはなんで？

虫やカビは、ほんの少しの食べカスや飲みこぼしで発生する可能性が十分にあるため、原因となる飲食物の持ち込みは原則禁止にしています。

虫の中には、作品を食べたり、フンで作品を汚すものがあります。また、カビは作品の表面に付着すると、そこで根を張り作品を壊すことがあります。



Q. 展示室内の隅っこで見かけるコレな～に？

虫を捕まえるためのトラップです。作品に悪影響を及ぼす虫がいないかどうか調べるために使います。美術館で使うトラップには家庭用のものとは違い、虫をおびき寄せるためのエサは付いていません。トラップを放置しすぎると、中に入っている虫の死骸が、さらに新たな虫をおびき寄せるため、1ヶ月を目安に回収するようにしています。



おうち美術館 PART 1

虫は部屋の隅を這い回る習性があるため、エサのないトラップも部屋の四隅に設置しています。家庭でトラップを設置するときも、四隅に設置することを意識すると上手く虫を捕獲できるかもしれません。



虫トラップ設置中

学芸員の仕事
作品保全編を
QRコードから
動画でチェック！



Q. 捕まえた虫はどうするの？

そのエリアに、どんな種類の虫がどのくらいいたかをカウントすることで、発生の原因や侵入経路を探ります。得られたデータをもとに、展示室内の虫の発生を防ぐための対策を立てます。



虫トラップは、
各所に
設置中！

テトゥアン
ルーム

毛髪式
温湿度記録計は
各所に
設置中！

Q. 記録はなんのため？

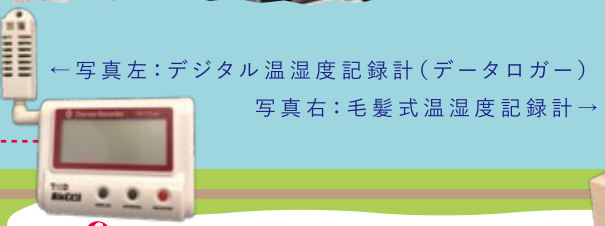
作品にとって負担の少ない、展示室内の理想的な湿度は50%前後です。湿度が60%以上になるとカビが発生するリスクが高くなります。逆に湿度が低すぎても、乾燥により作品に亀裂が入るなど、劣化の原因となります。また、短時間で急激な環境の変化が起こると、作品を構成する材質のバランスが崩れ、劣化の原因になる場合もあります。湿度を一定に保つことを目標に、24時間記録しています。

Q. この機械ってな～に？

上の2種類の機械は、継続的に展示室内の温度と湿度を測定するための記録計です。写真右は、温度や湿度が変化すると、毛髪が伸び縮みする仕組みを使用して計測しています。写真左のような、デジタル式の記録計も併用しています。

おうち美術館 PART 2

カビは湿度60%以上で発生するリスクが高まります。裏を返せば60%未満の湿度であれば、カビの発生リスクを抑制できるということになります。家庭でも除湿機を活用し部屋の湿度を気にしてみると、カビ発生の予防ができるかもしれません。



←写真左：デジタル温湿度記録計（データロガー）
写真右：毛髪式温湿度記録計→

デジタル
温湿度記録計は
各所に
設置中！

Q. 虫対策ってどんなことをしているの？

対策の1つとして、毎日の掃除が挙げられます。虫のエサとなるカビは、ホコリや外から持ち込まれた土などから発生します。原因となるそれらを日々取り除くことで虫の発生を防ぐことができます。他にも、ドアの隙間からの虫の侵入を防ぐドアブラシの設置も有効です。



展示室
入口